

## 佳作

### 「SDGsより良い未来の目標」 —新プロジェクト「3イノベーション」の提案—

青山学院大学系属浦和ルーテル学院高等学校 一年

砂川 友美子

東京で桜が咲き始めた三月下旬、私はニューヨーク、ジョン・F・ケネディ国際空港に降り立った。翌日、国際連合本部へと向かった私は、国連ビル正面、風にはためく加盟国の国旗を目にする。その姿は団結力の強さを示すかのように、堂々としていて晴れやかで、何とも美しかった。

この春、私は国際連合本部を訪問し、SDGsについて学ぶ機会をいただいた。国連本部では、日本政府代表部をはじめ、国連諸機関におけるSDGsへの取り組みについてお話を伺い、意見交換をさせていただいた。その中で、最も印象深くに残ったのは、SDGsは完璧なものではない。刻々と変化する世界情勢に合わせ、進化させていかなければならないというお話だった。現場では、臨機応変に対応する柔軟さと、行動力が求められている。では、私にできることは何だろうか。

そんな思いを抱えながら、帰国の途に就いた。

現在、日本ではSDGs達成のため政府が中心となり、様々な企業や団体が取り組みを進めている。では、私たち個人レベルではどうだろうか。そう考えた時、SDGsの存在すら知らない人が、存外多いのではないかと思った。実は、私もも知ったのは、一年程前のことである。しかし、この「知る」が私の意識を変え、行動する「きっかけ」を作った。そして、今、私は身近なことから取り組みを始めている。

例えば、学校へ水筒を持参すること。その利点は、お金の節約と熱中症予防だけではない。外出先での飲料水購入を最小限にすることで、ペットボトルなどの消費量を削減することができる。プラスチックが海洋ゴミとなり、海の生態系に大きな影響を及ぼしていることは周知の通りで、目標14「海の豊かさを守ろう」に直結している。生産者も消費者も、地球の環境と人々の健康を守るといふ観点からは、目標12「つくる責任つかう責任」にも関係していると言えるだろう。

また、私は国際ボランティアとして、身近な外国人と積極的な交流を行っている。これは草の根ではあるがパートナーシップの活性化に繋がる。SDGsを成功させるには、国など地域を超えたパートナーシップは欠かせない。それは正に、目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」そのものである。

このようにSDGsを知ったことで、私は身近なことから取り組みを始めた。未だ、未開拓とも言える、個人レベルでのSDGsへのアプローチ。私は、この小さな積み重ねこそが、目標達成への鍵になるのではないかと考えた。

そこで、私はSDGs周知とその推進を図るプロジェクト「3（スリー）イノベーション」を提案する。3イノベーションは、意識革新・行動革新・技術革新の三つの革新から構成される。

一つ目は意識革新。先ず、SDGsの認知度を上げることから始める。多くの人がSDGsを知り、自分にできることを考えるきっかけ作りをするのである。例えば、人が多く集まるショッピングモールやレジャー施設などで、日常の中で誰にでもできる取り組みを官民一体となって紹介する。ここで大事なのは、身近なことから具体的な例を挙げて説明することである。そうすることで、わかりやすく、且つ、即実践に繋げていくことができると考えた。

二つ目は行動革新である。私たち一人ひとりが実際に行動してこそ、効果が得られる。例えば、ゴミになるものを減らす「5R」という活動。この活動は物を無駄にしない、ゴミを減らすというだけではない。製品を作るため使われるエネルギーや資源の消費、排出される二酸化炭素の削減にも繋がる。一人ひとりの行動が、地球全体の環境を守るのだ。これ

は目標13「気候変動に具体的な対策を」を達成するためにも、重要な活動となる。他人事と思わず行動すること。それが、私たちの未来を創る一助となるのである。行動することの大切さを、多くの人にしっかりと伝えていきたい。

三つ目は、技術革新。一つ目の意識革新と二つ目の行動革新によっても、なお生み出される問題もあるだろう。それらを日々進化する最先端の技術で、最小限に留めていく。各研究機関や企業と連携を深め、有効な手段を積極的に取り入れていく。このプロジェクトの総仕上げの役割を果たすものである。これは、目標9「産業と技術革新の基盤をつくろう」にも関係している。

この意識革新・行動革新・技術革新のスリーステップで、SDGsを側面から支える「3イノベーション」。将来、私はこのプロジェクトを各地で展開し、SDGsと「3イノベーション」を融合させたボランティア団体を立ち上げたいと考えている。来る二〇三〇年SDGsが目指す世界を実現させる。その覚悟をもって取り組み、豊かな未来を私たちの手で創っていきたい。